

しんらい

2026.3月
vol.71



大牟田駅前



大正町



大正町店舗前



イオン大牟田店内



諏訪公園



中友公園



中友小学校



大牟田市役所到着



関市長にお出迎えいただきました

第22回大牟田市ほっとあんしんネットワーク模擬訓練

令和7年11月9日(日)大牟田市ほっとあんしんネットワーク模擬訓練が実施されました。今回は、認知症ライフサポート研究会の江川副代表が外出役となり市内色々な所を訪れましたので紹介します。行方不明発生以降は次のとおりです。8時30分警察からの行方不明届受理と同時に愛情ネット発信、大牟田駅→大正町→大正町店舗前→イオン大牟田店→諏訪公園→中友公園→中友小学校→10時54分警察に通報 11:02保護。その後、警察車両にて市庁舎までお送りいただき、訓練は無事に終了しました。当日の江川さんへの声掛け件数15件、声掛け人数33名。(詳しい内容は、6ページをご覧ください。→)

サ事協LINE公式アカウント

組織広報部会では、新たに協議会のLINE公式アカウントを作成し、会員事業所の職員の皆さんへの情報提供を目指しています。

介護に関するお役立ち情報や研修・イベントのご案内などをお届けしますので、皆様友達追加をお願いします。

大牟田市介護サービス事業者協議会



今回の訓練ではヘルプカードを使用して、目的地を目指しました。ヘルプカードとは、障害や持病がある人が緊急時や日常生活で困った際、周囲に支援や配慮を求めるときのカードです。



もくじ

- ・第22回大牟田市ほっとあんしんネットワーク模擬訓練 LINE公式アカウント 1
- ・コンチネンスケア大講演会 2・3
- ・令和7年度大牟田市市政功労者表彰 3
- ・九州ブロック “小規模多機能” 実践発表交流会 in 大牟田 4・5
- ・第22回大牟田市ほっとあんしんネットワーク模擬訓練 全体事務連絡会議・訓練当日・全体報告会 6
- ・第15回大牟田市介護サービス実践研究発表会 7
- ・☆キラッと輝き☆ケアイン大紹介 8

コンチネンスケア大講演会開催！

令和7年12月14日（日）大牟田文化会館小ホールにて「コンチネンスケア大講演会」が開催され207名が参加されました。本講演会は、排せつに関する正しい知識を市民の皆さんに知っていただき、排せつのリズムを整え、毎日を自分らしく快適に過ごすことを目的として毎年行われており、今年で11回目です。

まず初めに、キッコーマン総合病院 泌尿器科主任部長の鈴木基文先生より「知って得するオシッコの話」と題して、正常な排尿、具体的な症状に至るまで幅広く話があり、骨盤底筋トレーニングで頻尿を改善出来る等の解決策も教えていただき非常に興味深くためになる内容でした。続いて、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）東京山手メディカルセンター副院長・大腸肛門病センター長の山名哲郎先生より「知って得するウンチの話」について、ご講演いただきました。肛門の役割や便の形についてやストレスが便秘の原因にもなるなど、多岐に渡り話を聞く事ができました。中でも下痢への対処方法は非常にためになる話であり、食生活や便の整え方は今後自身でも活用できる内容でした。

先生方は、排せつに関わる体の構造や仕組み、内服薬や生活習慣との関係など、専門的な内容を分かりやすくお話いただきました。

講演後には市民の方と排せつケア相談員が一緒になってグループワークを行いました。日頃感じている排せつに関する悩みや不安を共有し、意見交換を行うことで、参加者同士が共感し合う場面も多く見られました。活発な話し合いが行われ、「時間が足りない」との声が聞かれるほど会話が弾んでいたのが印象的でした。

全グループから出た質問や悩みに対し、講師の先生方が回答される時間も設けられ、参加者は熱心に耳を傾けていました。司会のコンチネンスアドバイザーの種子田美穂子さんの進行は終始和やかで、会場には笑いも起こり、楽しく学べる講演会となりました。

排せつに関する悩みは身近なものでありながら、恥ずかしさや不安から、誰にも相談できずに一人で抱え込んでしまう方も少なくありません。そうした悩みを共有し、正しい知識を得ることで、解決への一歩を踏み出すきっかけとなる貴重な講演会だったと思います。



山名哲郎先生（左）と鈴木基文先生（右）
勉強になるお話をありがとうございました！



グループでの意見交換は盛り上がりました。
時間が足りない、どれを質問しようか



各グループから出た質問に講師の先生が
分かりやすく答えてくれました

排せつケア相談員の紹介

大牟田市には、今回司会をされたコンチネンシアドバイザーの種子田美穂子さんと、大牟田市が認定する排せつケア相談員が29名配置されています。このように、排せつケア専門の相談員を育成し、自治体が認定を行うのは、大牟田市が全国に先駆け、平成29年度から継続してきた取り組みです。また、3月25日には12名の新しい相談員が誕生します。排せつの困りごとがあれば、お気軽にご相談ください。「『排せつケア相談員』はこちらです」ののぼりがある事業所にいます！



市内の排せつケア相談員の皆さんです
心強いですね！

排せつケアに関する企業展示

例年同様排せつケアに関連する企業20社による展示会も行われ、様々な商品を実際に見たり触れたりして、非常に活気に溢れてました。各企業が当日、持ち帰れるサンプルもたくさん準備してもらっており、その点も好評でした。また、介護ロボット等の福祉用具の展示・体験も行なわれていました。



説明を熱心に聞かれてました

令和7年度 大牟田市市政功労者表彰

令和7年10月30日(木)、令和7年度大牟田市市政功労者表彰式が執り行われ、当協議会の井田会長が、保健福祉部門の表彰を受けられました。これは、当協議会が永年にわたり大牟田市の福祉分野に貢献してきたことが高く評価されたということであり、会長として協議会の発展・維持に長年尽力された功績が認められ今回の表彰に繋がりました。これもひとえに会員の皆様のご理解とご協力の賜物であると感謝申し上げます。井田会長からも「皆様のご協力のお陰でございます。ありがとうございました。」と感謝のコメントをいただきました。
※大牟田市市政功労者表彰とは、長年にわたり市政の発展のため、地方自治、保健福祉、社会福祉、産業経済、教育文化スポーツといった各分野において、多大なるご貢献をされた方や、多額の寄付をされた個人や団体に行われるものです。

今回の表彰は市民の福祉の増進、教育文化の向上若しくは産業経済の発展に寄与した団体又は福祉施設（本市の公の施設として設置されたものを除く。）の長として、永年にわたり尽力し、貢献した者に該当します。



今年度紹介できなかった研修・セミナーなど

- 6月18日 小規模連絡会
「運営会議& サービス運営意見交換会」
- 8月 4日 「電子申請届出システム活用についての説明会」
- 8月25日 「『ケアプランデータ連携システム』説明会」
- 8月28日 「排せつケア相談員養成研修開講式」
- 10月19日・11月16日 「新人職員基礎研修」
- 11月17日 小規模連絡会
「利用者の家族による家庭内虐待について」
- 11月26日 介護サービス向け感染対策研修
- 12月 9日 小規模連絡会
「小規模多機能型居宅介護スタッフ交流会」
- 12月10日 「生産性向上に関する研修会
社会福祉法人さわら福祉会視察研修」
- 2月12日 排せつケア「骨盤底筋訓練実践研修」
- 2月13日 小規模連絡会
「訪問看護事業所と小規模多機能事業所の合同セミナー」
- 3月18日 「ホームヘルパーステーション『ゴチャガ屋』」
- 3月19日 小規模連絡会
「実践事例発表会」
- 3月25日 「排せつケア相談員養成研修閉講式」
- 年15回開催 「認知症コーディネーター養成研修」
- 年 4回開催 「認知症ケア実践塾2025」
- 年17回開催 「排せつケア相談員養成研修」



★ Thank you! ★
to all participants. ★

九州ブロック “小規模多機能” 実践発表交流会 in 大牟田

九州全土から190名を超える実践者が
大牟田市に集結
「研修会」の枠を超え互いの現場をリスペクトし
共に描くこれからの地域づくり

EVENT REPORT

おおむたアリーナ多目的ホールにて令和8年2月7日(土)に開催された本会は、全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の黒岩氏による開会宣言、および関好孝大牟田市長からの歓迎の挨拶によりスタートしました。



基調講演では、大牟田市認知症地域支援推進員の浦氏が「小規模多機能と連携したまちづくり」をテーマに登壇。事業所が地域社会において果たす役割について論じました。講演内では参加者同士の意見交換の場も設けられ「高齢になっても認知症になっても、ここで暮らし続けられるまちづくり」というビジョンに対して会場全体で課題

や意識を共有する時間となりました。

実践事例発表では、3つのセッションに分かれ、計11の事例発表とフロアディスカッションを実施。各事業所の取り組みから、現場の課題解決に向けた具体的なアプローチが報告され、会場からも積極的な質問や意見交換がおこなわれました。

—発表事業所—

小規模多機能ホームすばる(鹿児島市) | 小規模多機能型居宅介護さとみち(嬉野市) | 複合型サービス ケアリング宮崎館(福岡市) | 小規模多機能事業所ひだまり(久留米市) | 共生ホームよかあんべ(始良市) | 看多機能かえりえ中津(中津市) | 小規模多機能型居宅介護ほほえみの園 ヒストリア前浜(宮崎市) | 小規模多機能ホームニー香椎下原(福岡市) | 小規模多機能ホームのどか(福岡市) | 小規模多機能うぐいす(有田市) | 小規模多機能型居宅介護セカンドハウス(唐津市)



実行委員長を務めた中島知巳氏(大牟田市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 代表)は、大会の総括として次のように述べました。「関係者の皆さまのご協力のおかげで今大会を無事に開催することができ、『小規模多機能王国大牟田』が持つ存在感を九州各県の実践者へ明確に示すことができたと自負しております。リアルに集い語り合うことで得られる知見は、地域福祉をアップデートするための重要で不可欠なステップであり、大牟田から新たな介護の未来を拓いていくと確信しています。」

PROGRAM (2月7日)

会場：おおむたアリーナ 多目的ホール

- 12:00 ● 受付開始 / よかもん商店街オープン
(特産品販売や事業所紹介ブース)
- 13:00 ● 開会
- 13:10 ● 基調講演①「小規模多機能と連携したまちづくり」
(大牟田市役所福祉課 浦 幸寛氏)
- 13:30 ● 第1セッション 実践発表①～④
(質疑応答・ディスカッション含む60分)
- 14:30 ● 休憩 10分
- 14:40 ● 第2セッション 実践発表⑤～⑧
(質疑応答・ディスカッション含む60分)
- 15:40 ● 休憩 10分
- 15:50 ● 第3セッション 実践発表⑨～⑪
(質疑応答・ディスカッション含む45分)
- 16:55 ● 情報提供「生成AIを活用した“いいケア研究”」
(全国連絡合 事務局長 山越 孝浩氏)
- 16:55 ● 基調講演②「あんたに会えて良かった」
小規模多機能の実践と、仲間の力
(全国連絡合 理事長 黒岩 尚文氏)
- 17:30 ● 開会

事業所視察 (2月8日)

大牟田市内の小規模多機能型居宅介護事業所
を対象とした見学会です。

1. 小規模多機能型居宅介護花ごよみ
2. 小規模多機能施設わたぜ
3. リビングアエル小浜
4. 小規模多機能型居宅介護ぶらいえ
5. 小規模多機能ホームふかうらの家

展示ブースの様子



会場内には、8事業所の展示
ブースを設置。特色ある実践
内容を紹介し、参加者との交
流の場として機能していました。

懇親会の様子



会終了後に、飲食店「月光
浴」にて開催された懇親会に
は約90名が参加。公式のセッ
ションでは語り尽くせなかった
実務ベースでの意見交換が
交わされました。

施設見学の様子



58名が参加する市内5事業
所の現地視察ツアーを実施。
実際の支援現場に足を踏み
入れ、地域連携などについて
現場スタッフとの直接対話が
行われました。

協賛・感謝の言葉

本イベントの開催にあたり、多大なる
ご支援を賜りました。頂戴した協賛金
は、本会の運営及び活動資金として大
切に活用させていただきました。

- ・小規模多機能型居宅介護 花ごよみ様
- ・小規模多機能施設 わたぜ様
- ・小規模多機能施設 くぶき様
- ・株式会社 あすか介護サービス様
- ・小規模多機能型ホーム よしの様
- ・社会福祉法人 あらぐさ会様
- ・社会福祉法人 熊本東翔会様
- ・やまなみ介適生活 株式会社様

(順不同)



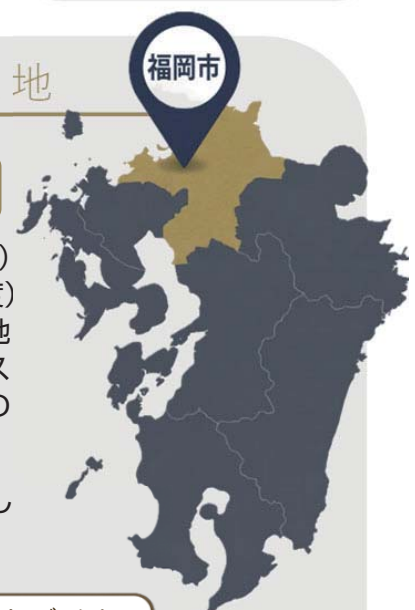
次回開催地

令和8年度

鹿児島 (R6年度)
大牟田 (R7年度)
に続く次回開催地
は、厳正なるバス
ケフリースローの
結果

福岡市に決定し
ました!

福岡であいたかバイ!
福岡で待っとるけん!



第22回大牟田市ほっとあんしんネットワーク模擬訓練

*** 模擬訓練当日 ***

令和7年11月9日(日)認知症であってもなくても安心して外出できるまちづくりを目指して、日頃から声を掛けし合える関係づくりと、命を守るセーフティーネットであるSOSネットワークの実効性について検証するために、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練を開催しました。今年度は、認知症を自分ごととして考え、本人とともに暮らすまちづくりについて考える機会とすると同時に、本人が目的地へ自力で行くことができるような声かけに重点を置いた訓練を実施し、19校区1,827名が参加しました。(別日開催校区含む)



当日本部では、声掛けのあった場所(左)、終了後の反省会(中央)、時系列の記録(右)を取りまとめました

各校区では、校区内の本人と地域行事に参加したり、多世代で「認知症を自分ごととして考える」勉強会を開催したりするなど、地域の実情に応じた訓練が行われました。

なお、この訓練は大牟田市介護サービス事業者協議会(主管:認知症ライフサポート研究会)が大牟田市より受託し、大牟田警察署及び大牟田市高齢者等SOSネットワークご協力の下開催しております。

(訓練の様子の写真は表紙に掲載しております。)



*** 全体事務連絡会議 ***

令和7年9月19日(金)大牟田文化会館小ホールにおいて、第22回大牟田市ほっとあんしんネットワーク模擬訓練全体連絡会議が開催されました。共生社会の実現を推進するための認知症基本法を受け、認知症を自分ごととして考えることの大切さを伝え3年目となったこともあり、「あなたの認知症観は変わりましたか?」という問いに対して、参加者同士で話し合っていたと、全員参加型での開催となりました。「認知症を自分ごととして考える」事は、認知症になっても安心して暮らせる地域を作る第1歩だと考えています。各地域でも認知症を自分ごととして考える機会を持ってほしいということを改めて共有させてもらいました。



自分ごととして考えよう

*** 全体報告会 ***

令和8年1月27日(火)大牟田文化会館小ホールにおいて模擬訓練全体報告会が開催されました。模擬訓練当日に「日頃からの関り」にチャレンジされた3つの校区に取り組みを報告して頂きました。

白川校区では、認知症本人から学ぶ機会を作り、当事者の世界観を学ばれました。吉野校区では、小学校で模擬訓練を実施し、認知症について考える機会を多世代に向けて発信されました。みなと校区では校区行事に施設の認知症本人が複数参加され、地域住民と共に交流を図られました。模擬訓練では、「いざというときのセーフティーネット」と「日頃からの関わり」の両輪を大切にしています。その両方が地域で育っていくことで、認知症になっても安心して暮らせるまちへと繋がるものだと考えています。今後も、認知症を自分事として考え、どのような地域になっていくべきかを認知症本人と共に作っていきたいと思います。



校区の取り組みを報告

第15回大牟田市介護サービス実践研究発表会が開催されました！

令和8年2月15日(日)おおむたアリーナ会議室1～4において、大牟田市介護サービス実践発表研究会を開催しました。今回は、初の試みとして、従前の審査に捕われずもっと気軽に参加してほしいとの想いから、審査をやめた実践研究部門と、新しく設けられた動画部門の2部門での開催となりました。当日は、実践研究部門のみで9事例の実践事例が発表されました。どれも利用者さんに寄り添った内容で、熱い思いで取組まれていることが伝わる発表でした。お忙しい業務の合間を縫って、発表に向けた準備を進めてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

基調講演は「困難事例に生かすユマニチュード」と題してユマニチュード®チーフインストラクターの杉本智波氏をお招きし、対応に困っている事例を具体的に分かりやすくお話しいただきました。ご本人の気持ちに寄り添い、目と目を合わせることの大切さなどを、隣の人とのロールプレイの中で体感することができ貴重な時間となりました。



杉本智波先生

発表者インタビュー

発表された皆さんに今回の事例に対する想いや発表しての感想を聞いてみました。

①グループホームたかさご



「私たちに出来ることはしたのか」
梅崎優貴氏

スタッフ同士の価値観やケア、介護技術を揃える事が少し大変だった。スタッフ皆で同じ方向を向こうとすることが出来たのは良かった。この経験が私たちの目指す指標(施設理念)を作るきっかけになった。

②小規模多機能施設くぶき



「自宅で安心して生活を送るために、私たちができる事」
松尾由美子氏、古賀正彦氏

資料作成にあたり、別の視点で考える事ができ新たな発見もあった。本人の行動や言動、想いをより意識するようになったことで、本人の想いや願いをもっと知ろうとする動機、意識付けに繋がった。

③特別養護老人ホームサンフレンズ(ショートステイ)



「『本人の声をケアの中心に』
本人の望む暮らしのお手伝い」
野田貴史氏、田中絵理加氏

職員同士の関係性が良くなり、利用者様がどうして欲しいかを考え今後も実践して行こうと思った。

④リビングアエル正山



「外出実験を通じたナラティブの活用と意識変容
～その人の『物語』が見えるケアへ：人をよく見るナラティブチームの実践～」
堀川理恵氏、中島知巳氏

ともぞう心の短歌
会終わり 報奨金を 部下にあげ
弾む声聞き 独り飲むお茶

筆名：有金尽太

⑤グループホームひまわり



「入居後も大切にしたい
カラオケ教室」
茶井一氏

カラオケ教室への参加を続けるためには、体調や安全面への配慮が必要でした。カラオケ教室の参加をきっかけに施設でも歌を歌う時間が増え、笑顔や会話が広がっているように感じられたことが良かった。

⑥小規模多機能施設わたせ



「『自分らしく最後まで自宅で生活したい』という願いを叶えるための支援」

岩村祐里氏、松尾由美子氏

初期の関わりのフィードバックにより、対象者の人間性や気持ちを理解できるようになり良かった。業務の合間での発表準備に関わるスタッフの調整や、どこまで詳細を発表していいかなどのプライバシーへの配慮が大変だった。

⑦グループホームふぁみりえ



「本人とともにつくる暮らしと楽しみ
～本人主体の再構築～」

山口正信氏

職員に対しての指導が大変ではあったが、本人の力を感じ取り、全員で取り組めた事が良かった。

⑧小規模多機能ホームねむの里



「大好きなお買い物、これからも安心していけるように・・・」

富安祐輝氏、堤征和氏

事例として発表する事により一層利用者への理解を深め、それを職員間で共有する事ができた。現在進行形の利用者である為、日々変わる状態に対応し、それを事例としてまとめる事が大変だった。

⑨サンフレンズ訪問看護ステーション



「在宅療養における多職種連携の重要性～家がいい、を支えるために～」

武藤直子氏、山下由美氏

生活環境を整える事に苦戦したがご家族の協力もあり、本人様にとって良いサービスを提供出来たと思う。

松井さんの

☆キラッと輝き☆ケアニン大紹介

第8回の「☆キラッと輝き☆ケアニン紹介」は、社会福祉法人それいゆ 居宅介護支援事業所こもれびの介護支援専門員として勤務されている新門未奈子さんのご紹介となります。いつもポジティブマインドで活動的な新門さんの、今の仕事を目指したきっかけや仕事をするうえでのモットーやプライベートな事など、色々聞いてみました。新門さんの人となりに迫っていきたいと思います。

～今の仕事を目指したきっかけ～

初めて就職した会社は営業職でした。仲間と共に目標に向かって一緒に頑張ることができ、とても楽しかったですし、ずっとこの仕事を続けるんだと思っていました。ですが、とても尊敬している方に「人を支えていく仕事をするという選択肢もある」と言われたことに感銘を受け、福祉の仕事に興味をもち目指すきっかけとなりました。



社会福祉法人それいゆ
居宅介護支援事業所こもれび

しんかど みなこ
新門 未奈子さん

～仕事をするうえでのモットー～

わたしのモットーは【上機嫌は、最高の作法】です。うちの事業所は現在7人のケアマネジャーがいます。それぞれが連携し、フォローし合い、共に課題解決に向かっており、個人作業をしながらもチームプレーができていますと感じます。まず自分が明るくポジティブな状態であることを心がけています。

～休日の過ごし方～

休みの日は友人や家族と過ごす時間を大切にしています。外出して楽しんだり、一緒に映画を観たりします。やりたいことが沢山あり、時間が足りません。でもこの忙しさは幸せなことだといつも感じています。

～最後にもう一言～

仕事ではひとつの物事にとらわれず、広い視野で色々な可能性を模索しながら取り組んでいきたいです。一人でも多くの利用者様やご家族が喜ぶ姿を見ることが何よりのやりがいです。皆様、これからも応援よろしくお願いします。



インタビューを終え

大牟田で共にケアマネジャーとして活躍されている新門さん。業務内容が同じということもあり、盛り上がり、ついしゃべり過ぎてしまいました。

きっと、たくさんの利用者様や、そこに繋がる多くの人を笑顔にさせる方なんだと感じました。わたしもそうあるように努力したいです。

新門さん、ありがとうございました。

編集・発行 大牟田市介護サービス事業者協議会 組織広報部会（部会長 齋田豪堅）
事務局：大牟田市福祉課内 住所：大牟田市有明町2丁目3番地
TEL：0944-85-0470 FAX：0944-41-2662
ホームページ <http://omutakaigo.net>